

初めて校閲者として経験したこと

魏 佳容

Copy-Editing for the First Time

Wei ChiaJung

校閲者／Copy-editors 繁体字中国語／Traditional Chinese 簡体字中国語／Simplified Chinese

I
論考

私の母は台湾南側の都市一台南で生まれ育ちました。台南は奈良と同じく、古都と呼ばれるほど文化財が多い地域です。私は毎年母の実家に行くついでに、さまざまな文化財を訪れていたので、元々文化財に興味がありました。また、勝手に同じ古都の奈良に対して親近感を持っていて、日本に来てからもよく旅行に行きました。だから、去年からこの仕事で校閲者として奈良とつながる機会をいただけて、とてもうれしいです。

外国で生活しているときに常に感じたのは、トイレなどの表示からミュージアムなどの説明パネルまで、繁体字、簡体字を分けて表示するより、簡体字中国語でひとくくりにされる場合が多いということです。中国語は地域によって、同じ言語でも全く違う意味になる場合があります。だから、奈良文化財研究所が繁体字、簡体字を分けて説明パネルやパンフレット、チラシを作成したことは、一繁体字中国語使用者として、心から感謝しています。やはり自分が生まれてから使っている母国語はずっと残ってほしいです。そのためにも、私も校閲の仕事で貢献したいと考えています。

日常生活で簡体字中国語を見て頭の中で繁体字中国語に切り替えることはできても、今回は初めて仕事として繁体字を校閲したので、元々文化財好きとはいえ、一般用語はさておき、文化財についての専門知識は不足していて、校閲するときに、調べないといけないことや学ばないといけないことがたくさんありました。忙しくなりましたが、私にとっては充実した時間でした。

文章を校閲すると、一般用語や文化財専門用語以外で、日常ではありませんふれていない別領域の専門用語が出てくることもあります。自分で調べることも当然しますが、もしその領域の専門知識を持つ友達がいれば、念のためその用語が今も使われているかどうかや、使い方の確認などをしていました。

一般用語に関しては、繁体字中国語は簡体字中国語より、日本の漢字の使用方法に近いこともあります。例えば「不織布」の繁体字中国語は日本語と同じ「不織布」ですが、簡体字中国語は「无纺布」で、簡体字中国語を見るだけでは本来